

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

研修会記録

第 2 号

令和6年7月22日

横浜市小学校教育研究会

会長 沼田 留美子

横浜市小学校社会科研究会

会長 高島 聡

同 学年部長 田澤 哲哉

【提案日時】

7月 3日 (水)

提案 瀬古 優星 先生 (戸 部小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 三浦 智 先生 (高舟台小)

記録 笠井 俊充 先生 (永田台小)

1 提案内容

单元名「沖縄県の人々の暮らしと工夫

～サトウキビと沖縄の人々の工夫から学ぶ、台風の二面性～

2 提案者より

子どもの問題意識を高めるために、総合的な学習の時間で学んでいる「さとうきび」を導入に活用した。子どもたちにとって身近なさとうきびだけを取り上げてしまうと、子どもの実態として、さとうきびについて調べることに突き進んでしまうため、多面的に考えられるように台風と絡めながら単元を構成し、台風とさとうきびが共存していることに疑問をもたせることができた。

視点①

○単元づくりについて

総合的な学習で探究していた「さとうきび（黒糖）」を導入に活用した。背の高いさとうきびが、台風の多い地域で栽培されている意外な事実に出合わせるとともに、座標軸を活用して疑問を子どもたちと一緒に整理することを通して学習計画を立てた。また、Sさんの言葉である「台風のありがたさ」と出合うことで、台風の二面性について考える単元にした。

視点②

○個を生かし、協働的に学びを深める授業づくり

学級総合での話し合いの土台があり、全体で協働的な学びを成立させることが多い。自分たちが見出した問いの情報を収集したり、考えたことを満足いくまで話し合ったりする活動に主体的に取り組む姿が見られる。今回も子どもたちの問題意識を大切にして、社会的事象に迫る発問や十分に話し合うことができる時間を確保するなどして授業を行った。

3 協議会

導入について

- 実物の2mのさとうきびを活用することで子どもたちを引き付けることができた。
- 総合的な学習で学んだことや、そこからの切実感が今回の教材に活きている。
- その反面、さとうきびの導入はインパクトが大きいですが、さとうきびを単元のなかでどのように位置付けていくのが大切である。さとうきびを調べる学習ではないので、さとうきびの何に着目して、今回考えさせたい「気候と人々の暮らしの関係」にどのように結び付けていくかを考えていく必要がある。
→さとうきび⇒家の構造にいくのか？
だとすると、単元に登場するSさんに焦点を当て、人の営みにもっと寄ってもよかったのではないか。

座標軸について

- 座標軸を使うことで、自分たちで設定した学習課題に向けて、自分たちで決めた手順で課題解決することができ、子どもたちの学習意欲の向上につながった。また単元の見通しがもてるよさもあった。

ふり返りについて

- 社会科の視点を意識した振り返りカードを使用することで、子どもたち自身がどのような見方・考え方を使ったかを可視化することができ、これまでにない振り返りの方法なのでいい例が広がっていくとよい。

<講師の先生より>

鵜飼 数夫先生

学級の児童を総合的な学習の時間を中心に指導しており、普段から子どもの意見を大切にしていることが分かる。総合的な学習の時間と社会科は密接に関わっているので、教科横断的に単元を構成したのはよかった。今回の単元の導入でさとうきびを扱うことは、子どもたちの問題意識や切実感があり、とてもよい手立てではあるが、以後の子どもの思考の流れを考えると導入としてふさわしいものだったのだろうか。さとうきびが、暖かい地域で暮らす人の生活にどのように結びついていくのかを考えていく必要がある。本気の学習「台風のメリット・デメリットを考えよう」は本気になるのであろうか。また、さとうきびの生育について考える時間は必要ない。社会的見方・考え方を明記している振り返りカードは、子ども自ら率先して駆使しようとしているので、手立てとしては有効と考える。社会的見方・考え方を明記している。

単元を立てたときにうまくいかない、それを修正していくのが問題解決学習。板書はきれいにまとまらなくてもいい。こうじゃない？違う？と言いながら学習を進めていく学習でもよいのではないか。

文責 笠井 俊充（永田台小学校）